

幼児教育者に對する希望

會長 中 川 謙 二 郎

事の大小

或る二ツの問題なり、事象なりに對して、これは大きな問題であるとか、これは小さな事柄であるとかいふやうに、其の價値に輕重の差別を附けると云ふやうなことは、一般の社會によく行はれて居る事柄であります。勿論、大小と云ふことは比較上の言葉でありまして、絶對の言ではありませぬ。故に總の事柄に對して、さう云ふ差別を認め、輕重、細大に従ふて事に處すると云ふことは、云ふまでもなく大切でありますけれども、其の差別を附けるに當つては、餘程、慎重な態度で、楯の両面を見、總の方面から其の問題を觀察して、其の利害を闡明するだけの、忠實な用意を持つことが大切であらうと思ひます。

のみならず、さう云ふ相對的な差別を附ける前には、先づ二の問題の個々の價値、言ひ換れば、比較上の價値ではなくて、絶對の價値を認めてかゝることが必要であります。彼の普通屢々行はれます様に、甲のなして居る仕事と、乙のなして居る仕事とをたゞ一列にくらべて、甲の方の仕事は、乙よりも大きいとか偉いとか云ふやうなことは、非常に輕跳な批判法と云はなければなりません。若し、甲と乙との立場の相違なり、個人的の意味なり、社會的の意味なりを考へて見ましたならば、さう云ふ比較的價値を附けると云ふことは決して容易な業とは申されないのであります。それを、こゝ迄考へて見るだけの用意を失つて、徒らに自己の好惡なり、親疎なりの情に訴へて、其

の價值を上下すると云ふことは、決して人を尊ぶ道ではないと共に、自己を重んずる所以でもありませぬ。

然るに世には、前に申したやうな批判法が往々にして行はれて居るやうであります。吾々が日常の談話の中にも、矢張り同様な意味で、これは大事であるとか、これは些事であるとかいふやうな言葉を、無意義に使つて居ります。斯う云ふ誤つた批判の力で、物を觀ました結果、意外な間違を生じたと云ふことは、實世間の上にも往々あることとであります。

これを例へて申しますと、一身、一家に關する事柄は、最も小さなことである。言ふに足らない些事であると云ふことは、よく聞く處であります。そして、一身のことを考へ、一家のことを計ることが、非常に卑しむべきことであるかのやうに考へて居る人も少くはないやうであります。然し一

身一家のことは、それ程に小さな問題でありませうか、そんなに卑しむべき事柄でせうか、勿論一身一家を、皇室、國家、社會等に比べますと、極めて小さい、價值のないものであります。然し、それは皇室、國家、社會と云ふやうな大きな權威に對立せしめた時にだけ、さう云ふ價值の輕重が論せられるもので、其の絶對の價值に至つては、國家が大なれば、一家もまた大であると云ふことを忘れてはならないと思ひます。

更に進めて、國家其のものに就いて考へましても、一國は即ち一身一家から成立つて居るものであります以上は、國家が大なれば、それを構成して居る一身一家もまた、決して小であるとは申されない譯であらうと思ひます。若し一身一家を輕しとするならば、これに依つて成立つて居る一國もまた輕くなる譯であります。一身一家を重んずると云ふことは、總て一國を重んじ、皇室を尊

ふ所以でなければなりません。

つまり主観と客観との相違、これが物の観方に
大なる差違を生ずる根本の因由とすることが出来
ます。或る一事件に對して、これを主観的に觀た
場合は非常に大きい事件に思はれても、これ
を客観した場合には、家常菴煩な些事と見れるこ
とも往々にあることであります。此の二つの觀方
を適度に調和すると云ふことが、最も完全に近い
批判法と云はなければならぬと思ひます。

幼稚園教育の價値

私は前に申した意味を、直ちに幼稚園教育の現
狀に見出すのであります。幼稚園教育と云ふもの
に對する社會一般の理解が、今の場合、何處まで
進んで居るかと云ふことを考へて見る必要がある
と思ふのであります。成る程、専ら幼稚園教育に
従事されて、これを自己の使命とされて居る特志
家だけには、其の眞價も相當に理解されて居るこ

とは事實でありますけれども、それを離れた一般
社會や、幼兒教育家以外の教育家は、此の問題に
どれだけの注意を拂つて居るでせうか。私が茲
に保母諸君の自覺を呼び起し度いと申すのは、即
ちこの點に外ならないのであります。

若し、幼稚園教育と云ふものは、吾々の生涯を
これに投じて働くだけの價値のないものである、
誰れにでも任せて置けばいいものであると云ふや
うなことを考へて居る人があるとすれば、それは
大なる誤りと申さなければなりません。

幼稚園教育を、教育上の一事業として研究致し
ますると、どの點から考へて見ても、小さなとか、
些細なとか云ふやうな點は、どうしても見出され
ないのであります。若しあるとしますならば、そ
れは子供そのものが小さいと云ふに過ぎませぬ。
保育すべき子供が小さいからと申して、それに施
すべき保育上の仕事そのもの迄も小であると考へ

る人は、即ち楯の両面を見ない皮相な見解と云はなければなりません。私は、兒童の大小と、教育の大小とは、寧ろ反比例を示すものであつて、子供が小さければ小さい程、その保育の困難なり、保育者が被保育者に及ぼす感化なり、従つてこれに伴ふ勞力なりの大なることを信ずるものであります。

幼稚園教育は、總の教育の根本であり、基礎であるばかりでなく、一個の人間を作り上げる上の最も大切な基礎であります。そして其の兒童は身體精神共に、弱いのでありますから、保姆の一言一行は、直ちに非常な強さを持つて、兒童の頭に印象されるものであることは云ふ迄もありません。私の保姆諸君に希望し度いと思ふ點は、こゝから出るものであります。

保姆諸君に對する希望
即ち私が保姆たる人々に切望し度いと思ひます

ことは他ではありません。諸君が先づ幼稚園教育の偉大なる事業であることを了解して、これに對する極度の尊敬と畏懼の心を持ち、それと同時に、此の大事業に従事する自分達の偉大なることを自覺して戴かなければならぬと思ふのであります。今日の人間は、まだ進歩の足りない人であるから、誰れにしても、多少缺點のない者はないのであります。たゞ自ら自分を省みて、どうすれば其の缺點を少くしやうかと云ふことに意を用ふるより外はないのであります。保姆の缺點、長所は直ちに子供の頭に映じて行くのでありますから、昨日よりは今日、自己の長所が一つでも増すとしなすと、同時にそれだけ子供の長所を増して行くこと云ふことを知らなければなりません。勿論、幼稚園教育は、家庭を離れた兒童教育の一であります。故に子供の發育の如何は、獨り幼稚園に於ける保姆の全責任であるとは申されませ

ぬ。併し、一度び委託を受けた以上は、自分の其の全責任を負ふだけの覺悟を有つ必要があると思ひます。それには、これに相當するだけの學識なり、體格なり、技能なりを有つことは勿論大切でありますけれども、それよりも、もつと大切な根本的の資格としては、先づ高潔な人格、即ち道徳上の修養を積み、智徳を磨いた人であつて、且つ益々其の修養に怠らない人であることが必要であります。

殊に幼稚園の保姆は、今の處多くは齡若い女子

小兒畫家ラルソンの話

日なたの家

今日は小兒畫家ラルソンのお話をして見たいと思ふ。ラルソンは今年六十歳で、スウェーデンに

の人々がこれに當つて居らるゝ有様でありますから、繰り返して申し上げて置き度いと思ふのは、道を修むるは、今であると云ふことであります。勿論、年老いた後には、道は修められないものだとは申しませぬけれども、然し身體發育の時機に於ける修養は、一番身につくものであります。殊に人格の修養と云ふとは、單に保姆としての資格の上に必要ならばなく、個人としての自己を作る上にも、是非修めなければならぬ道であると云ふことを忘れてはなりません。(談。文責在記者)

菅原 敷造

現存して居る大家である。ストックホルムで生れた人で、やはり其處に住んで居るけれども、春から秋にかけてスンドボルンと云ふ田舎の別荘へ